

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野 I	観察技術論演習	1	30	1年次	5月	東垂水 朋子
授業概要 フィジカルアセスメントについて理解し、系統的観察および適切にフィジカルイグザミネーションを実施身体測定の方法について学習する。また、観察したことを伝達できるための意義と方法について学習する。						
到達目標 1.観察およびフィジカルアセスメントについて理解できる。 2.フィジカルイグザミネーションを修得できる。 3.看護における記録・報告の意義と記録の方法について理解できる。						
使用教材 テキスト： ①系統看護学講座 基礎看護技術 I：医学書院 ②横山 美樹：著 はじめてのフィジカルアセスメント：メヂカルフレンド社 参考文献等：山内 豊明：著 フィジカルアセスメント ガイドブック：医学書院 DVD (山内豊明教授のフィジカルアセスメント シリーズ)						
評価 筆記試験 授業計画						
時間・回数	授業内容					方法
6時間・3回	1. 看護における観察とは 2. フィジカルアセスメントの意義 3. 観察方法（視診・触診・打診・聴診）とその意味 4. 身体各部の測定（身長・体重・胸囲・腹囲） 5. バイタルサインとは 6. 体温・脈拍・呼吸数・意識のメカニズム 7. 体温・血圧測定方法					講義 実技
4時間・2回	8. 呼吸器のアセスメント 【呼吸器系のフィジカルイグザミネーション】					講義 実技
6時間・3回	9. 循環器のアセスメント 10. 循環器家のフィジカルイグザミネーション					講義 実技
4時間・2回	11. 消化機能のアセスメント 12. 消化器系のフィジカルイグザミネーション					講義
2時間・1回	13. 運動機能のアセスメント					講義
2時間・1回	14. 感覚機能のアセスメント					講義
2時間・1回	15. 高次脳機能のアセスメント					講義
3時間・2回	16. アセスメントの伝達 1)看護における報告の意義と方法 2)記録の目的と必要性、種類 3)記録物の管理と取り扱いとその重要性 4)看護記録の要素・種類・記載上の留意点					講義
1時間・1回	筆記試験					
備考 ○解剖生理学の知識を踏まえながら講義をすすめる ○日常生活援助技術実習、問題解決技術実習で実践できる能力を養う						